

## 1-(4) 水田を基本とした水稲・野菜複合経営の確立

### — 地域で取り組むブロッコリー栽培 —

#### 1 活動のねらい

管内ブロッコリー栽培者の情報交換の場を提供し、生産意欲の向上、生産者の定着を促進する。また、集落営農組織でのブロッコリー栽培を推進し、地域農業発展のモデル事例となることを目指す。

#### 2 課題の背景

水稲農家の冬場の所得向上を図るため、平成 24 年度から水稲との複合経営品目としてブロッコリーの栽培を推進している。毎年新規生産者が増加しており、現在の生産者は 52 名となっている。しかし、中には湿害による品質の低下や収量の減少、それに伴う所得減少を理由に生産をやめてしまう生産者もいる。

そこで、今後も生産を維持・拡大していくためには、個々の生産意欲の向上に加えて、生産者を確保し定着させることに加えて、地域ぐるみで営農に取り組む組織を育成することが必要である。

#### 3 普及活動の経過

##### (1) 安定生産に向けた支援

###### ア 集団指導と個別巡回

栽培講習会には生産者約 30 名が出席した。定植のタイミングや昨年多発した病害虫の対策、鳥害対策について重点的に指導した。特に、鳥害対策については使用する資材と鳥害対策を実施している現場の写真を示し、わかりやすく説明できるよう工夫した。台風前後には注意喚起チラシの作成と配付を行い、事前・事後対策を行うよう呼びかけた。

また、JA きみつや種苗メーカーとの合同巡回を実施し、生育の良否や湿害対策の実施状況等を確認した。

###### イ 先進地視察研修会の開催

12 月 4 日には、先進地視察研修会を開催し、生産者、関係機関合わせて 25 名が参加した。山武市蓮沼地区では、栽培技術や出荷・検品体制について、東総野菜研究室では試験研究成果について学んだ。参加者は、視察先及び参加者間で積極的に情報交換を行っており、日頃の疑問を解決できた生産者もいた。

##### (2) 集落営農組織でのブロッコリー栽培支援

君津市平山地区では、地域住民自らが集落営農の必要性を考え、JA きみつや君津市、農業事務所が協力し、体制の確立に向けて話し合いを進めた。30 年度、複合経営化に向けて水田裏作品目としてのブロッコリー栽培を開始した。農業事務所では、苗の定植、病害虫防除、収穫作業など、栽培のポイントとなる作業に立ち会い、現地指導を行った。

## 4 普及活動の成果

### (1) 技術力の向上

定植時期である9月中下旬に継続的な降雨があったが、ほ場準備が早めに行われたため定植は比較的順調に進んだ。また、10月1日には台風が上陸したが、葉面散布や殺菌剤の散布により、生育は多くのほ場で回復した。このように、各々の生産者がこれまでの経験を踏まえて対策を講じており、生産技術が向上していることがわかる。また、栽培講習会で紹介した鳥害対策を実施し、その有効性と作業性を確認した生産者が現れた。

### (2) 集落でのブロッコリー生産

30年度、平山地区では10aが作付けされ、出荷が行われた。収穫初日には、平山地区の生産者4名、JAきみつ担当者、農業事務所が集まり、収穫の方法、出荷・調製の方法を確認した。生産者はブロッコリー以外の園芸品目の生産にも意欲的であり、さらなる拡大が期待される。



先進地視察研修会の様子（12月4日）



平山地区、初収穫（12月14日）

## 5 今後の発展方向と課題

栽培技術力及び品質の向上のためには、生産者どうしの定期的な情報交換の場は必要である。今後もこのような機会の設定、支援を行っていく。

農地を守り、農業をいかに継続していくかは、地域の将来にとって大きな課題となっている。平山地区をモデルとし、地域一体となった営農活動を支援していくことが重要である。

## 6 担当者

南部グループ：柴寄 正博、吉井 菜那、宇津木 育実、青木 優作、加藤 志歩、  
高祖 博之、北澤 悠里香

## 7 協力機関

君津市農業協同組合、全国農業協同組合連合会千葉県本部、君津市、  
農林水産部担い手支援課